

# 尾瀬ネットワーク通信

Vol 14. No. 1 2011年5月



## 目次

第8期定期総会で全議案を承認	1
2011年度 定期総会報告	2
第3回残雪調査／尾瀬沼清掃活動	3
尾瀬の植物「ミズバショウ」	4
事務局だより	4

## 2011年度定期総会で全議案を承認

～大震災の尾瀬の自然への影響を懸念～

**理事長 永島 熱**

4月16日、さいたま市で開催した尾瀬自然保護ネットワークの第8期定期総会において、2011年度の活動計画及び予算などの全議案が満場一致で承認・可決された。

**東日本大震災のお見舞**

去る3月11日に発生したマグニチュード9.0の巨大地震は、東日本各地に甚大な被害をもたらしました。被災地の皆様には心からお見舞いを申し上げます。

当会には、福島県や宮城県など東北地方の会員が多く、東京電力の福島第一原発の重大な事故により、今なお、家族が別々に、先の見えない厳しい避難生活を余儀なくされている。

震災後2ヶ月以上が経過しても東日本では余震や放射性物質の拡散で不安な日々が続いている。被災地の早期復興と原発事故が一刻も早く収束し、被災された方々が一日も早く普段の生活に戻れるよう、心からお祈り申し上げます。

なお、定期総会において大震災の義援金を募り、大勢の会員から沢山の善意を頂きました。

**今年度も多彩な活動を計画**

定期総会は、高橋理事の開催宣言の後、全員で東日本大震災の犠牲者に黙とうを捧げた。

今年度も次ページの定期総会報告に掲載したとおり多彩な活動を計画している。一人でも多くの会員の参加を期待したい。

活動の柱である入山者への啓発活動は、土日に福島側は御池～沼山峠口間のシャトルバス内で、群馬側は鳩待峠において合わせて8回実施する。

調査活動としてはニホンジカの食害調査、地球温暖化影響調査の一環として、新たに蝶の調査を開始する。

特に、深刻な被害を受けている大江湿原におけ

るニッコウキスゲの食害調査は、今年度を最終調査年と位置付け、これまでの調査結果を取りまとめて、「尾瀬を守る会」と協力して、関係機関へシカ対策の強化を訴える予定である。

また、移入植物のオランダガラシに関しては調査に区切りをつけ、今年度は除去に向けた活動に取り組む。

更に、創立20周年記念事業基金の創設も承認を頂いた。当会は平成9年3月に発足し、平成1

5年9月にNPO法人に改組した。昨年8月に、主たる事務所を東京都から福島県に移転した。周年記念事業は平成29年度を実施目標に取り組みたい。

**大震災の影響**

今回の大地震により尾瀬の自然がどの様な影響を受けたのか、例えば池塘の崩壊（水抜け）、燧ヶ岳や至仏山の山頂部の落石や岩石の不安定化など、大変心配である。永い歴史を有する尾瀬の自然が、今年も美しい姿で入山者を優しく迎えてくれることを願っている。

木道・橋・公衆トイレ・山小屋など、各施設の被害状況も雪解け直後には明らかになってくるであろうが、GW時点における情報では特に大きな被害はなかった模様である。

昨年の尾瀬国立公園の入山者数は34万7千人であったが、震災後の自肃ムードや原発事故の影響により入山者数が減少するのか、気になるところであるが、尾瀬の自然にとって人為的負荷が減ることは好ましいと考える。

尾瀬の大地主である東京電力が経営環境の激変により同社の資産を売却する場合、尾瀬の所有地が生態系保全を第一義にして、真の国立公園のモデルケースとして後世に引き継がれるよう、注意深く凝視したい。



# 2011年度 定期総会報告

(敬称／役職省略)

1. 日時：2011年4月16日(土) 13:00～17:00
2. 場所：大宮ソニックシティビル 902会議室
3. 出席者：21名、委任状：30名、正会員数：88名
4. 出席者氏名：葦原、伊藤、牛木、大橋、大山、加藤、亀山、川、小鯛、椎名、鎮目、東雲、清水、高橋（喬）、田中、永島、初谷、前田（佳）、松村、松澤、深山

## 5. 開会宣言：高橋喬

3月11日に発生した東日本大震災の犠牲者に全員で黙とうを捧げました。

**議長：永島勲**

書記：椎名宏子

議事録署名人：葦原義人、大山昌克

## 6. 理事長挨拶：永島勲

## 7. 議題

### 1) 2010年度 活動報告

- ①事務局報告 2010年度活動履歴：前田佳胤
- ②活動報告：永島勲
- ③尾瀬を守る会報告：高橋喬

### 2) 2010年度会計報告：伊藤アケミ

### 3) 2010年度会計監査報告：深山美子

### 4) 2011年度活動計画

- ①入山指導 福島側：初谷博
- ②入山指導 群馬側：清水博之
- ③シカ食害調査：初谷博
- ④地球温暖化の影響調査：初谷博
- ⑤指導員養成講座：前田佳胤
- ⑥尾瀬を守る会活動計画：高橋喬

## 8. 議題の主な内容

### 1) 2010年度 活動報告

永島理事長が、福島と群馬の活動を一括して報告。深刻なニホンジカの食害の状況に関して詳細に報告が行われた。

また、尾瀬を守る会の報告として高橋理事が尾瀬沼東岸のヘリポート問題を説明した。

### 2) 2010年度 会計報告は伊藤理事が行い、会計監査は深山監事が行った。

### 3) 2011年度活動計画

#### ①福島県側入山指導等 (担当：磯部、円谷)

第1回目 5月4日(水)、大江湿原の残雪調査、尾瀬沼清掃

第2回目 5月28日(土)、29日(日)

第3回目 6月11日(土)、12日(日)

第4回目 7月16日(金)、17日(日)

第5回目 9月3日(土)、4日(日)

3日は檜枝岐歌舞伎の鑑賞

特別研修 9月16日(土)～18日(月)

奥只見のブナ林の観察会

第6回目 10月8日(土)、9日(日)

※第2回目～第6回目の入山指導は御池～沼

山峠口間のシャトルバス内での啓発活動

②群馬県側入山指導等 (担当：清水)

第1回目 6月18日(土)

第2回目 7月24日(日)

第3回目 10月15日(土)

笠ヶ岳・片藤沼自然観察会 8月6日(土)

※第1回目～第3回目の入山指導は鳩待峠において啓発活動を実施

③ニホンジカ食害調査 (担当：円谷)

・福島県側 第3回目、第4回目活動において大江湿原でニッコウキスグの食害を調査

④指導員養成講座 (担当：前田)

・現地研修 8月26(金)～28(日)

尾瀬ヶ原及び尾瀬沼にて2泊3日で実施

⑤尾瀬国立公園域における地球温暖化の影響調査 (担当：初谷)

・移入植物調査/自生植物分布の経年変化/生物季節の気温との関係等

・残雪量調査/大江湿原における実地調査とラ

イブ画像によるモニタリング調査

・尾瀬ヶ原における蝶の調査

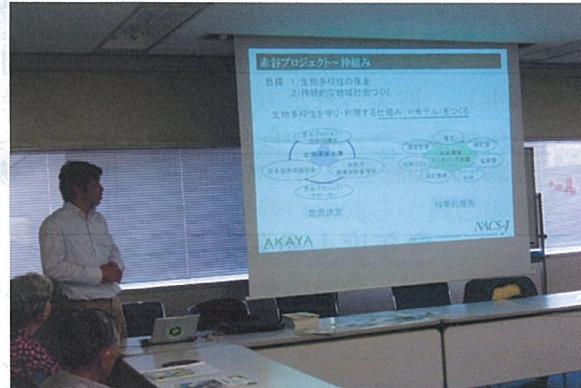
### 4) 2011年度予算

創立20周年記念事業基金の積立を承認

## 9. 特別講演会

講師に(財)日本自然保護協会の出島誠一氏をお迎えして、「自然再生・赤谷プロジェクトの取り組み」と題して、1時間30分の講演を頂きました。

群馬県水上町の国有林「赤谷の森」における地元の地域協議会、日本自然保護協会、林野庁関東森林管理局の三者及びサポーターによる幅広い関係者による生物多様性復元に向けた取り組みを紹介。



大型猛禽類の舞う空と森を目指した森林管理、豊かな渓流環境を目指して治山ダムの撤去、動物たちが健全に暮らす森、環境保全教育の推進、人工林を自然林に復元し、様々な動植物が生息・生育できる生物多様性の高い森、地域と森との新しい関わり方を探る等の実践的な活動事例をご紹介して頂きました。

プロジェクトの推進には中核3団体による企画運営会議と自然環境モニタリング会議の連携

により、科学的根拠に基づく意思決定が行われ、自然を損なわないように活用した地域づくりが進められている。

出島様にはご多忙にもかかわらず、懇親会にも快く出席いただき、多くの会員との交流を深めることができました。

## GW 第3回残雪調査（大江湿原） および尾瀬沼清掃活動

福島側担当理事 調査代理 磯部義孝

1. 実施日：5月4日（水）晴 気温 16°C (沼山駐車場)

2. 調査地点：大江湿原 沼山峠登山口付近

3. 調査概要：

今回で3年目となる残雪調査を、上記日程で実施した。また、元長蔵小屋裏で、前の護岸工事で埋め立てられた空き缶やビンの回収なども実施した。

### 残雪量調査

調査は定点計測で、いずれの場所も昨年よりも残雪量は多かった。今冬の積雪量が多かったためか、今回の調査ではシカの踏み跡の確認は出来なかつた。

### 《残雪調査結果》

No.	年度 地点	2011年	2010年	2009年
1	大江湿原入口地点	120cm	115cm	110cm
2	小淵沢田代分岐点	140cm	125cm	110cm
3	ヤナギラン分岐点	130cm	126cm	83cm
4	3本カラマツ分岐点	140cm	160cm	95cm
5	沼山峠入口200m付近	160cm	160cm	—
大江湿原平均値		133cm	132cm	100cm



大江湿原の残雪量調査

湿原の平均値を見ると、昨年とほぼ同じ残雪で

ある。また、登山道周辺樹木の根回り穴での調査も昨年と同様の数値を見る。昨年は雪に覆われていた3本カラマツの根元に、今年は雪が無く林床が見えていた。

### 尾瀬沼清掃

3年計画の最終年度として、湖畔より沖合い約10m・幅約25mの湖底に沈んでいる前の護岸工事に使われたドラム缶が腐食してその中に詰め込んでいた空き缶・空き瓶が、散乱したものと思われる。それらの湖底ごみが、ほぼ回収できたと思われる。



尾瀬沼の清掃活動

ただ、台風等で沼が波立ち湖底が大きく攪乱されれば、泥に埋もれて見えなかったごみが再び目立つことも予測される。



回収した尾瀬沼のゴミ

4. 参加者：安部晃樹、磯部義孝、伊藤アケミ、鹿野キミイ、亀山良吉、永島勲、藤田隆美

## ～尾瀬自然講座～

### 尾瀬の植物（8）

春の雪解けと共に周囲の山々を背景に純白の花を咲かせるミズバショウは、尾瀬のシンボル的存在です。北方系の植物であり、世界には苞の白いミズバショウと黄色のアメリカミズバショウとの2種類だけです。今回は、このミズバショウの生活誌を追ってみましょう。

#### ミズバショウ（サトイモ科 多年草）

千島、サハリン、カムチャツカ、シベリア東部、日本では北海道、本州中部以北の低山帯から亜高山帯の湿地や水辺に群生することが多い。東北地方では水田の脇や人家の周りでも普通に見られ、兵庫県の降雪地帯にも生育しています。



ミズバショウ



アメリカミズバショウ

根茎は大きくひも状に横に這い、雪が消えると同時に数枚の葉と花径を出し、純白の大きな仏炎苞（苞葉が変化したもの）に守られ円柱状の肉穂花序を密集して付けます。やや悪臭のある両性花で、花被片4個、雄しべ4個、雌しべ1個からなり雌性先熟であるが多少開花のズレがあるので、自花受粉、他花受粉とで結実率は非常に高いのです。



肉穂花序



花（花被片4 雄しべ4 雌しべ1）

花後、仏炎苞は枯れ、熟した果実は緑色の液果で周囲に散らばり水に濡れてゼリー状になって種子を守り、散布されます。普通は3年目に葉の数が4～5枚になると、花を付けるようになります。和名は、葉が芭蕉布の材料になる芭蕉の葉に似て水辺に生育することによります。近似種にザゼンソウ・ヒメザゼンソウ・ヒメカイウがあります。

※ 仏炎苞の仏炎：仏像の背後にある炎形の飾りのこと

こと

※ アメリカミズバショウ：北米に分布し英名はイエロー・スカンク・キャベージと言い、苞が黄色で大変美しいが、悪臭がある。日光の東京大学附属植物園で見られる。

※ 花の観察：花と同じ目線に立ってルーペを使って見る。改めてこの花の素晴らしさ、緻密さに驚かされる。

参考資料：フィールドウォッチング（北隆館）・植物の世界（朝日新聞社）・野山の植物（小学館）・日本の高山植物（山と渓谷社）

（指導員：深山美子）

#### 事務局だより

##### ①義援金の寄付について

4月16日の定期総会において、東日本大震災の義援金に沢山のご協力を頂きました。

この義援金は、震災に加え東電の福島第一原発事故により、今なお厳しい避難生活を余儀なくされている当会員の小野寺さんご夫妻に寄付させて頂きました。

##### ②尾瀬を守る会の総会開かれれる

5月19日（木）於：緑の地球防衛基金會議室  
出席者：高橋喬

#### ★★会報誌編集委員からのお願い★★

\*会報誌への原稿投稿をお願いします。

\*原稿締切：発行月の10日

#### NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

Vol.14 No.1号 2011年5月20日 発行

発行人：永島 熟

編集担当：鎮目 安康

(1)本部事務所

〒969-0404

福島県岩瀬郡鏡石町旭町19 円谷方

電話・FAX 0248-94-5003

(2)群馬支部

〒370-0001

群馬県高崎市中尾町762-16 清水方

電話 027-361-8055

(3)事務局

〒263-0051

千葉市稻毛区園生町1223-11、D-307 前田方

電話・FAX 043-252-2604

